

千石岳 初日の出 真っ赤な太陽に歓声

今年には二百人が集う

和田青年団 亀谷 美人(殿明)

恒例の行事となっている、御来光の集いの世話は、私達青年団として、一年の最初の活動となっている。

今年の準備は、年末の三十日に千石岳に子供会役員の方と、私達団員七名が登り、山頂での焚火の用意や、登山道の整備などをし

て、素晴らしい御来光であるように祈って下山した。

大晦日は、夜中から団員が次々と私の家へ集り元日を迎えた。

暗闇の四時半に十数名の団員が、準備した物をそれぞれの車に積み込み出発した。

今年も、千石林道が開通したので大変楽であったが、古タイヤ・水の入ったポリタンク・コーヒー等飲物の荷物を背負って急

な坂道を登るのに変わりなくきつかった。さっそく、焚火をして待っていると、子

供や子供会の役員・地元の人々や富田ミニバスの子供たちが次々と登ってきて、山頂

はいちだんとにぎやかになった。

用意したレギュラーコーヒーを一人一人にふるまった。

「おいしい、おいしい」の声は嬉しかった。また、初めて試みた宝探しに熱中した子供

供たちを見て、ほんとうによかったと、団員の笑顔はすがすがしかった。

いよいよ御来光・快晴の東空がぐんぐん紅く染まってきた。……

真っ赤な太陽を迎えた時、一斉に感激と喜びの声がわきおこった。実に素晴らしい御来光の集いであった。今年も、お互いがあの御来光のような輝かしい年であることを祈っている。

謙虚な心と 感謝の心を

昭和十四年生 原 マツ子 神頭谷

うさぎのように、温かい心をもち続け、人の話を聞く耳を大きくして、「お陰様」という謙虚な心と「ありがとう」という感謝の心を持ちつづけ、心身ともに「うさぎ」のように飛び跳ねたい。

人生を 封時吟に

大正四年生 高原春子 米光下

生涯学習の一つとして取り組んだ詩吟の勉強を、今年もは兎のように飛躍の年としたいと思います。

夫逝きてはじめし詩吟、

はや三年、何が何でも

山まで登れ

吟ずれば、吟ずるほどに奥深く

我、歳月と気負いたれども、

三日月の、冴え冴えとした

この夜更け、われ、吟じたい

「山中の月」

悔いない人生を

昭和四年生 清水教雄 升谷

去る日は楽しく、来る日もまた楽し、今まで仕事に追われてなしえなかつたこと、「あれもしたい」「これもしたい」と欲望は大きい。たった一度かぎりのかけがえのない人生なのだから、より充実した悔いのない楽しい生涯の出発点としたいものです。

なにげにもががんばりたい

昭和五十年生 林 満弘 米光下

兎のように、元氣よく外で遊んだり、運動をして病気にかからないように、また、けがをしないように気をつけ、学校を休まないようにがんばるつもりです。それに、もう一つ野球で勝つことです。皆んながんばろう。

巡ってきた兎年

わたしたちの抱負

— 歳おとこ 歳おんな —

『卯の歳』柔順、温和で清潔好き。愛きょうあって、交際上手なわたしたちです。

〔明治三十六年(八十四才)〕

田戸 藤井マス

米光上 蔵本ハルノ

田戸 山本チヨコ

中村 喜代永ツル

打木 福田ミチ

田戸 山田チサ

米光上 木村チサ

米光下 近藤アキ

米光下 重原キクノ

和田 山田市治郎

夏切 津田茂雄

平木 宇田政雄

西下 佐藤五平

木下 渡辺喜一

米光上 竹光幸一

米光下 藤井栄一

田戸 波辺幸一

米光下 神田英雄

〔大正四年(七十二才)〕

和山 重永フミ子

栗山 山田春子

夏切 津田アサノ

林 古川ヨシエ

米光下 高原春子

殿明 倉田アサノ

打木 松野早子

車々 藤井ミ子

山内 土井ヒサエ

池田 伊藤マサ

十郎 渡辺シヅ子

原赤 山縣武香

木下 今澄正

和山 山本忠利

米光上 山本俊雄

西下 貞弘喜作

〔昭和二年〕

男子 十八名

女子 二十名

〔昭和十四年〕

男子 七名

女子 九名

〔昭和二十六年〕

男子 二十名

女子 十一名

〔昭和三十八年〕

男子 九名

女子 六名

〔昭和五十年〕

男子 二十名

女子 十一名

昼間の豪雪 二十五センチ

暖冬一転 ドカ雪

午後からは交通もマヒ

十三日、この冬初めての本格的な大雪となり、日中であるにもかかわらず、解けることなく、しんしんと降り積もる雪は、みるうちに野も山も、道も白一色に包んでしまった。

午後からは、道路の交通は、困難となりバスも不通となった。

和田支所での観測でも、朝の二センチが夕方には三十五センチにも達するほどであった。

小中学校も午前中で授業を打ち切り、一斉下校となるほどで、国道は無論、県、市道にもブルドーザーが出動した。除雪作業は明十四日の日没まで行われるなど、最近まれな豪雪に地区の皆は肝を冷した。

近年の30cm以上の積雪記録

昭和	37年	2月	1日	30cm
"	38	12	30	45
"	42	2	6	35
"	48	2	23	38
"	57	1	30	30
"	62	1	13	35

和田部落内の積雪量

子供会では、恵まれない人のために毎年、年末のシーズン空き缶を利用して、共同募金をしています。

昨年暮れには、募金をいれた空き缶約百五十個を持ち寄り、中にいれてあったお金を集計しました。缶の中にはその都度いれた

年末助け合い募金

子供・空き缶募金を贈る

一円玉・五円玉・十円玉と、温かい子供たちの気持が寄せられておりました。この募金総額は二万三百七十五円でした。

その和田小学校児童会 二万七千円
の和田中学校生徒会 一万六千七百円
他の募金も行われました。

米光保育園・園児募集

保育所の入所案内

米光保育園では、園児四十六名のうち、この春二十五名が巣立って行きますが、新しい園児の入所を皆でお待ちしております。現保育児のご家庭には、別にご案内しておりますが、新たに入所希望される方は、次により手続きを行って下さい。

米光保育園での手続きは

一月二十五日(日曜日) 午前九時～正午

" 二十七日(火曜日) 午後四時～六時です。

入所資格、必要書類、その他詳しくは、市役所社会福祉事務所にお問合せか、広報しんなんよう一月十五日号(十頁)をご覧ください。

上手に咲かす シクラメン

管理のポイント

冬の鉢花の代表は「シクラメン」です。手入れ次第では、花数も葉数と同じに咲き、また、長期間咲き続けます。

そのために必要な管理のポイントを紹介します。

日光

半日以上日があたる所で管理するのが理想ですが、少なく、とも一日に三時間以上は欲しいものです。

温度と湿度 適温は、昼間で二十五度。夜間は十二度が理想です。夜は冷えても十二度は保ちたいものです。

これ以下になりますと花芽の着きが悪くなります。また、暖房のある部屋に置いている場合は、日に一回霧吹きしてやり、乾燥を防ぎます。

買い求めた場合は、普通一ヶ月位は肥料を



摘み心

枯れかかった葉や花は、こまめに付け根からかき去りましょう。

与える必要はありませんが、その後は、液肥を水で薄め月三回位与えましょう。
(葉が黄色くなって枯れる原因は、日光不足・肥料切れ・湿度不足がほとんどのようですので注意しましょう。)

灌水 水のやりすぎは根腐れの原因になりますので注意して下さい。
土の表面が乾いても二日や三日は大丈夫です。そのかわりやり与えるときは、充分灌水します。

「注意」灌水するときは、直接土に与えます。葉や株に水がかからないよう特に注意しましょう。

和田公民館

新刊図書紹介

- 生体解剖 (上坂冬子)
- 体の中から (高島忠夫)
- スリムになる本 (山手樹一郎)
- 遠山の金さん (手塚治虫)
- 火の鳥 乱世編 (手塚治虫)
- 心の医学おもしろ事典 (斎藤茂太)
- 妖艶伝 (海音寺潮五郎)
- 公園通りの午後 (笹沢左保)
- 華麗なる鬼気 (笹沢左保)
- 美貌の鬼気 (笹沢左保)
- 夫と妻の時効 (吉村昭)
- ふおん・しいほるとの娘 (赤川次郎)
- 魔女たちのたそがれ (赤川次郎)
- 探偵物語 (赤川次郎)
- 冒険入りタイム・カプセル (赤川次郎)
- 死体は眠らない (赤川次郎)
- 愛情物語 (赤川次郎)
- プロメテウスの乙女 (赤川次郎)
- 魔女たちの長い眠り (赤川次郎)
- 泥棒物語 (赤川次郎)
- たとえば風が (赤川次郎)
- 明日を殺さないで (赤川次郎)
- 桃花洞葛飾ごよみ (赤川次郎)
- 新しい図案カッパ集 (赤川次郎)
- 夜叉神堂の男 (赤川次郎)
- 逆髪 (赤川次郎)
- 絵島疑獄 (赤川次郎)
- 二条のノ后 (赤川次郎)
- 極道 (赤川次郎)
- 好色な狩人 (赤川次郎)
- 夜の獲物 (赤川次郎)
- 白昼の獲物 (赤川次郎)
- 呪いの家 (赤川次郎)
- 黒い扇 (赤川次郎)
- 華やかな魔獣 (赤川次郎)
- 三味線お千代 (赤川次郎)
- 密通 (赤川次郎)
- 女の足音 (赤川次郎)
- 湯の宿の女 (赤川次郎)
- 消えない焔 (赤川次郎)
- とまどいの日々 (赤川次郎)
- 図案 (赤川次郎)
- 退屈な午後 (赤川次郎)
- 無影燈 (赤川次郎)
- 領袖 (赤川次郎)
- 私の青春めぐり (赤川次郎)
- 今吉賢一郎 (赤川次郎)
- 沢地久枝 (赤川次郎)
- 西村望 (赤川次郎)
- 青島幸男 (赤川次郎)
- 志村文蔵 (赤川次郎)
- 渡辺淳一 (赤川次郎)
- 小島直記 (赤川次郎)
- 勝目梓 (赤川次郎)
- 平岩弓枝 (赤川次郎)
- 伊藤桂一 (赤川次郎)
- 湯川久雄 (赤川次郎)
- 杉本苑子 (赤川次郎)